

ニュース

みんなでつくろう！

しまやけべいせき
下宅部遺跡はっけんのもり

第91回育てる会

恒例 秋の野焼き

11月21日(土)は第91回育てる会「秋の野焼き」を行います。育てる会の縄文土器部会が中心となって作成した土器を、下宅部遺跡はっけんのもりで野焼きにします。

朝10時頃から火を熾し、焚き火の回りで土器に予熱を与えます。12時頃には逆に土器を中心に置いて、回りを焚き火で囲みます。徐々に焚き火を土器に近づけ、1時頃には炎で土器を包み込みます。3時頃には土器を水で冷やして終了です。

来場者には焼き芋のおまけ

が付きまます。この秋、たいけんの里で収穫したサツマイモを、野焼きの熾火でほっこり焼きます。

開催日

平成21年11月21日(土)

※雨天順延

時間

午前10時から午後3時頃

場所

下宅部遺跡はっけんのもり

問い合わせ

ふるさと歴史館

042-396-3800

八国山たいけんの里

042-390-2161

第99号【'09-11月号】

発行：下宅部遺跡はっけんのもりを育てる会
東村山市諏訪町1-6-3
TEL：042-396-3800
発行日：平成21年11月13日



今回焼成予定の土器

「はっけんのもりを育てる会」とは、下宅部遺跡を後世に残すためにつくられた遺跡公園「下宅部遺跡はっけんのもり」(所在地 東村山市多摩湖町4丁目3番地)の管理・運営と、下宅部遺跡および考古学一般についての知識を広めることを目的としています。

そのための具体的な活動としては、「下宅部遺跡はっけんのもり」の除草・清掃、縄文体験を行う「開園周年イベント」「お誕生日会」と「東京都文

化財ネットワーク」参加イベント。縄文土器づくり教室とその時に作成した土器を焼く縄文土器の野焼き。日帰り研修見学会と宿泊研修。はっけんのもりの生物調査や縄文食の材料となるトングリ拾い。遺跡に関する専門家の先生を招いての講演会。そして会の運営のための会議などを行っている。また、有志による土器部会・ファンギン部会があり、小学校への出前授業のお手伝いや、はっけんのもりでの案内も行っています。



東京都文化財ウィーク参加事業

はっけんのもりへようこそ！

2009 報告

火おこし・ドングリ・縄文食 高縁慎吉

11月3日、文化の日。

朝から快晴。9時30分、定刻に八国山たいけんの里に会員勢ぞろい。全体打ち合わせ。

本日の行事は、午前中は下宅部遺跡はっけんのもり。午後は今年オープンした八国山たいけんの里でおこなう。

早速、はっけんのもりの会場設営に入るため、西へ約300m。大きな荷物はリヤカーで運搬。小物は自転車あるいは手持ち。準備万端、キャリア5年来のボランティア諸君、設営は手慣れている。瞬く間に準備完了。11時頃、漸くお客が来る。殆ど親子連れ。

はっけんのもり

A、火おこし体験に誘う。取り敢えず8セットを準備。まばらな入りなので道具は十分である。チャレンジヤーは難なく火おこしができ、驚きと同時に



火おこしにチャレンジ

満足感。道具にもボランティアの工夫でさまざまな改良があり、大成功である。

B、どんぐり拾い。人気の遊び。はっけんのもりで拾ったどんぐりを、丸石を使って擣り潰す。子供向きで、楽しそう。

C、縄文紙芝居。新人が担当、アシスタントもいる。これが実に面白い。縄文時代の暮らしがよく理解できる。縄文の打製石斧、指図棒を持つての説明は実に解り易い。紙芝居の文の作者、絵の作者を紹介し大喝采で終わる。

E、会員製作の物品等の販売。会員が作った縄文笛、アングン（編布）とも良い出来栄で、売れゆき好調。

「マドンナ」さんの土偶パンは、発売当初に比べ格段なおいしさに変化。評判も良い。今後も楽しみ。

はっけんのもりでの行事は12時半終了。現場を綺麗にして「たいけんの里への案内板」だけを残し、午後にそなえて八国山たいけんの里に向かう。

八国山たいけんの里

ちよこつと体験（子供の情操教育）常設館だけに、賑わいがある。

ここには「下宅部遺跡からの発掘品」が数多く展示されている。漆の採取あとの生々しい杭、漆製品。湿地帯でないと残らない貴重な展示品の数々。見ごたえがある。説明ボランティアも配置されており、理解が得られるようになってきている。

A、縄文食。土蔵前では縄文食のふるまい中。スープは薄塩だけの料理。焼



縄文食をふるまう

肉は実に野性味があり上等。いのしし肉、鹿肉は子供、来館者に大好評。

B、弓矢体験は常設。この体験はやりだすと後を引く、何度も繰り返しのイノシシ、鹿にめがけ、矢を射る。

C、色あわせ。なかなか綺麗で、いろいろ見かけない特殊色が楽しめる。草花の優しい色である

D、木の葉スタンプ。各種の葉っぱを使ったスタンプづくり。文様の現われが綺麗。幻想的。

E、漆塗り体験。赤・黒の合成漆塗料を用いて、耳飾その他装飾品の色付けをする。漆塗りは参加者が全品持ち帰り、人気のほどがうかがえる。

紙芝居を担当して

重山由枝

今回、初めて紙芝居を担当して、強く感じたことがあります。私は縄文紙芝居の経験はなく、不慣れであるにもかかわらず、学芸員の方からは「お任せします」とおっしゃって頂けました。「このことで」はっけんのもりを育てる会「は、日頃から学芸員の方々の信頼関係の絆によって成り立っている会」であることを確信したのです。

縄文紙芝居は、学芸員の方と「はっ



縄文紙芝居「縄文少女ヒナタ」

けんのもりを育てる会」の会員の方に、苦心しながらも心をこめて作られた紙芝居です。作られた方の下宅部遺跡に寄せる熱い思いを、紙芝居を見て下さる方々に伝えなければという気持ちで、誠意をもって精一杯やらせて頂きました。

紙芝居を担当することになって、まず一番先に考えたことは、縄文時代という時代をまだ知らない年令のお子さん達に、どのようにしたら縄文時代の物語を楽しんでもらえるか、どのような説明だったら縄文時代という時代を分かってもらえ、下宅部遺跡の価値を伝えることが出来るかということでした。

ヒントを得るために、何人かの小学生に声をかけ、縄文時代に関する話を聞いてみたところ、五年生でもキョトンとしていました。縄文時代を知らないところに来て、物語に出てくる言葉をいかに理解してもらおうかと考え込んでしまいました。低学年のお子さん達にも理解してもらいたくて、結局「ムラの長老」「狩の長おや」「術」等の言葉を分かりやすい言葉に変えての読



縄文紙芝居を熱演

み聞かせにしたのですが、はたしてそれでよかったのかどうか……。たとえば言葉が理解しにくくても、元の表現を使った方がよかったのかしら？と、お役目が終わりホッとしていいはずなのに課題が残された気分で、時代ものの紙芝居の難しさを感じました。

紙芝居をはじめめる前に、縄文時代をイメージしてもらいたくて、お子さん達には「縄文時代は皆が力を合わせな

ければ生きていけない時代でした」と説明したのですが、考えてみたら「はっけんのもりを育てる会」は縄文時代のムラの様子と同じような……。

長老及び狩の長おや達のよき指導のもと、皆が力を合わせて助け合って生きていた縄文時代の人々。学芸員の方々のよき御指導と会の代表・副代表のよきリーダーシップのもと、会員各々が自分出来ることで力を合わせている「はっけんのもりを育てる会」。縄文時代に生きた人々と「はっけんのもりを育てる会」との共通点を見出した思いです。

「育てる会」ではこの度の行事の成功を願い、前もって皆でトングリを拾い集めに行きました。「八国山たいけんの里」に連日足を運び、火おこしの準備をされた方もいらっしゃいます。当日は早目に集合し、打ち合わせ通りに各々の担当のところで、「お役に立てて嬉しい」という気持ちで、自分のできる活動を快くされておりました。

「下宅部遺跡はっけんのもり」と「八国山たいけんの里」において、縄文体験を楽しんでいるお子さんの様子に嬉しく思い、親子で縄文体験に取り組んでいる姿は何とも微笑ましく、また羨ましくもありました。私共が子育てを

していた頃の東村山は、我が子に縄文体験をさせてあげたくても夢の又夢でしたから……。いわんや市内から出土した縄文時代の遺物が見られ、遺物を通して縄文時代の人々の知恵・知識の偉大さを身近で感じる事が出来ることは夢にも思ってみなかつたことですから……。

だからこそ今日、我がまちにある全国的に有名な下宅部遺跡から出土した遺物のすごさに感動し、身近で縄文体験が出来る喜びを一人でも多くの方に感じてほしいのです。

下宅部遺跡があるまちから「縄文体験は楽しく、遺跡から出土した多くの遺物を目にし、説明を聞いたことが考古学への関心のきっかけとなりました」という声が多く聞かれるのも夢ではないかも……。

紙芝居の発表にあたり、物語が下宅部遺跡にちなんでいるだけに、いい加減なことは避けたくて、学芸員の方から改めて遺跡や縄文時代について教えを請い、育てる会の方からは親切なアドバイスを受けました。多くの方の支えがあつたからこそ、役目を果たすことができ、有り難い経験をさせてもらいました。

お知らせです！

新刊紹介

新泉社 シリーズ「遺跡を学ぶ」62

『縄文の漆の里・下宅部遺跡』

著者 千葉敏朗

「東京都郊外、狭山丘陵の谷間から、縄文時代の水場がみつかった。大量の木材とともに出土したのは、目にも鮮やかな朱の漆を塗った弓、杓子、匙などの美しい工芸品である。縄文人はどのようにして漆細工を極めたのか、漆の採取と巧みな使用法を明らかにする。」(表紙リーダーより)

下宅部遺跡について、分かりやすく解説した本が出版されました。特徴的な漆を中心に、木材などの縄文時代の植物利用にスポットを当てています。一般書店で販売。一五〇〇円。



講演会予告

下宅部遺跡はっけんのもりを

育てる会講演会

演題 「縄文時代の植物利用」

講師 小薬一夫

東京都埋蔵文化財センター

日時 平成22年2月21日(日)

会場 東村山ふるさと歴史館

小薬氏は縄文時代の植物利用について、実験的なアプローチを併用して追求している研究者です。縄文時代の食や衣(繊維)などについて、採取から調理や加工など、分かりやすくお話しさせていただきます。

体験学習を行う上で、非常に参考になると思いますので、是非ともご参加ください。参加費、会員無料、一般一〇〇円(予定)。

育てる会

今後の予定

11月14日(土) 午前8時から

除草・清掃作業(はっけんのもり)

※雨天の場合は11月21日(土)

11月21日(土) 午前10時から

第91回育てる会「土器の野焼き」

(はっけんのもり)

11月26日(水) 午後1時30分から

アンギン編み(八国山たいけんの里)

11月28日(土) 午前8時から

除草・清掃作業(はっけんのもり)

※雨天の場合は12月5日(土)

12月2日(水) 午後7時30分から

定例検討会議(ふるさと歴史館)

12月6日(日) 午後1時30分から

縄文土器作り(八国山たいけんの里)

12月10日(水) 午後1時30分から

アンギン編み(八国山たいけんの里)

12月13日(土) 午前8時から

除草・清掃作業(はっけんのもり)

※雨天の場合は12月19日(土)

12月19日(土) 午後1時30分から

第92回育てる会「検討会議」

(ふるさと歴史館)

12月19日(土) 午後5時から

忘年会(会場未定)

育てる会 会員募集

みなさんも育てる会の仲間たちと一緒に、下宅部遺跡はっけんのもりを成長させませんか？

正会員：会費年間1200円

通信会員：会費80円切手12枚

お申し込み：ふるさと歴史館

☎042(396)3800まで